

セミレぽ！ ～セミナー・イベントから見るデータ利活用最前線～

HITACHI
Inspire the Next

～データが裏づける変革の礎～

TECH+ EXPO 2021 Winter for データ活用

“伴走者と一緒に進める「サステナブルなデータ活用」のポイント”

2021年12月9日(木曜日)～10日(金曜日) オンライン開催 (株式会社マイナビ TECH+セミナー運営事務局)

デジタルトランスフォーメーション(DX)という言葉が盛んに取り沙汰されるようになりました。先進的な事例に関する情報が数多く発信され、データ利活用に対する期待は一層高まっています。

しかし、データ利活用には難しい点や気をつけるべきポイントが多く、新サービスや技術革新のサイクルが激しい分野でもあります。データ利活用を進めていくその前に、日頃からの情報収集が大切です。

このセミレぽ！(セミナーから見るデータ利活用最前線)では、セミナーのレポートを通じて、データ利活用の最新情報をお届けしていきます。

TECH+ EXPO 2021 Winter for データ活用

右: TECH+ EXPO 2021 Winter for データ活用 特設サイトから——

経営の不確実性が高まる昨今、多くの企業がビジネスの在り方、世の中とののかかわり方を再考する必要に迫られています。この流れを見極め、より一層迅速な意思決定を下すためには、データを活用したビジネスの変革・データ経営へのトランスフォーメーション(構造改革)が求められています。

11回目を迎える今回フォーラムでは、有識者による基調講演・特別講演のほか、「データ × ビジネス」で先を行く12社が先進事例を紹介するセッション、およびデータ活用に不可欠なソリューションを解説するスポンサーセッション、計40セッションが2日間にわたって配信され、視聴者に経営戦略を考察するヒントが提供されました。

参加登録は、さまざまな業種から1,000名を超える大盛況となり、「自社ビジネスの新たな可能性を探るために先進事例が知りたい」「ビジネス変革を実現するツールやソリューションが知りたい」といったデータ利活用に対する関心の高さをあらためて実感しました。



伴走者と一緒に進める「サステナブルなデータ活用」のポイント

右: 日立社会情報サービス 販売推進部 盆子原による講演「伴走者と一緒に進める「サステナブルなデータ活用」のポイント」の様子——

当社は、「伴走者と一緒に進める「サステナブルなデータ活用」のポイント」と題して講演を行いました。

世界中のさまざまなものがインターネットにつながり、特に直近の約5年間では、POSやeコマースによる販売記録、MtoMデータを含む自動取得データの活用が大きく進展しました。

約7割の企業が閲覧・集計などの「データの可視化」を実施している一方で、統計的な分析を行っている企業は5割程度、機械学習・ディープラーニング活用による予測については1割程度にとどまっています。

本講演では、データ活用において今なお重要な位置づけである「データの可視化」をテーマとし、大きな課題である「プロジェクトの継続性」にスポットを当て、無理なく続けるデータ活用のポイントについて事例を交えて紹介しました。



息切れしてしまう「データ活用プロジェクト」

右：当社講演から抜粋

ビッグデータ利活用元年と言われた2017年から約5年が経過し、デジタル・トランスフォーメーション（DX）というキーワードが盛んに取り沙汰されるようになりました。

効率化やビジネス変革のためデータを活用する企業や組織が増え、先進事例に注目が集まっています。その一方で、人材やノウハウの不足により継続的な取り組みが難しいという声もよく聞かれます。

このようにデータ活用プロジェクトの大きな問題のひとつは、“続かない”ことですが、データ活用プロジェクトを“継続性”という視点で最初から取り組んでいる企業は、そう多くありません。

そこで当社は「サステナブルなプロジェクト推進」と「経験ある伴走者のアサイン」を、データ活用プロジェクトの重要なポイントと位置付けています。近年は伴走型プロジェクト支援サービスの提供を通じ、データ活用のための下準備と可視化を起点として、お客さまのプロジェクトに参画しています。

どうすればさまざまな前提条件の変化に強い、サステナブルなデータ可視化を行うことができるのでしょうか？

そんな発想から、実際のお客さまプロジェクトへの参画を通じてサービス化されたのが、Qlikカスタマーサクセスサービスです。

お客さまニーズと現実の困難

データ活用に対する期待は一層高まっているが……

自社事業への貢献（結果を出したい！）

希望： ■ 素早く正確な現状把握 ■ 分析や予測に基づく先手の対応 ■ 業務効率化／コスト削減 ■ ビジネスモデル転換／新たな価値創出	現実： ■ 取っ掛かりがつかめない ■ 人材不足 ■ 予算の制約 ■ 導入後の定着問題
---	---

息切れするプロジェクトが多発

データ活用を成功に導くポイント

プロジェクトで陥りやすい難所を乗り越えるために

① サステナブルなプロジェクト推進	変化を前提とした仕組み仕掛け にする —— マネジメント・アカウンタブル、各階層で実践
② 経験ある伴走者のアサイン	豊富な経験（先人の知恵）をもつエンジニア を専任につける —— 日本のICT人材は7割以上がCT企業に在籍（※1）

当社が伴走支援しているお客さま
3年間のプロジェクト継続率（与定着率） ➡ **90% 以上**（※2）

Qlik カスタマーサクセスサービス

BI（ビジネスインテリジェンス）ツール……企業が持つさまざまなデータを見ることで、経営や業務に役立てるソフトウェア。

当社は、2008年12月からQlikViewの販売パートナーとして培ってきた数多くの実績と蓄積された開発ノウハウがあります。お客さまにはその豊富なノウハウで、導入支援から保守・運用まで総合的な技術サポートを提供しています。テクニク、エンジニアリング、マネジメントの3層に分けてサステナブルなデータ可視化・ダッシュボード開発を提案します。

BIツールの普及が進み、データの可視化・分析が容易になりましたが、データ利活用プロジェクトが直面する困難は10年以上前からそれほど変化していません。

一般にBIツールの機能やその使い勝手については、高い関心をもって情報収集されています。しかし、データが業務や運用と実際に折り合うかまで見通しているお客さまはまだ少ないのが現状です。

Qlik カスタマーサクセスサービスは、QlikView、Qlik Senseの経験豊富なエンジニアが、貴社の状況に合わせてプロジェクトの成功を支援するサービスです。

データ利活用プロジェクトでつまづくポイントはさまざまです。当社はQlik製品だけでなく、データ可視化の前段階であるデータ準備や、Qlik製品導入後の長期運用を通じて得た豊富な経験を生かし、お客さまに伴走しながらプロジェクトを進めていきます。

<こんなことでお困りではありませんか？>

- ✓ QlikView、Qlik Senseで思ったような画面を作成できない
- ✓ データ加工、データ統合に膨大な手間がかかっている
- ✓ データ量の増加によって分析画面の操作性が低下した
- ✓ データ分析業務と本来業務との兼務で両立が難しい
- ✓ QlikView、Qlik Senseを導入したが活用が定着していない
- ✓ BIツールを導入予定だが判断に迷っている

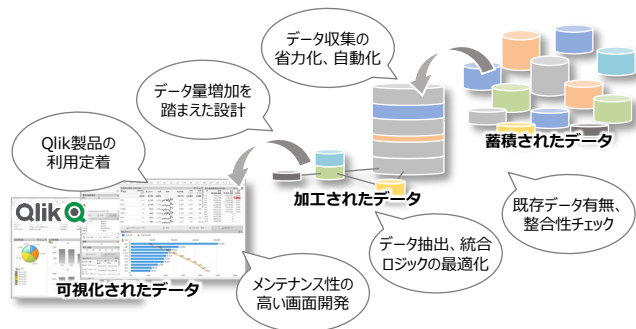
Qlikカスタマーサクセスサービスのご紹介は、以下のサイトから。
<https://www.hitachi-sis.co.jp/sp/qlikcss/>

Qlikカスタマーサクセスサービス
紹介サイト



Qlikカスタマーサクセスサービスに関するご相談は、以下のサイトから。
https://inquiry.hitachi-sis.co.jp/webapp/form/24221_pvjb_6/index.do?a=30

Qlikカスタマーサクセスサービスに関するご相談



研修で習った内容を
自分でできなかったのが
助かった

本来の業務に専念
できるようになった



最適な方法を
一緒に考えてくれる

時間を有効活用
することができる

お問い合わせ・ご相談は、株式会社日立社会情報サービスまで